



8 天鷲絨友禪修学院離宮図掛幅

十二代西村總左衛門

一幅

明治二十七年(二八九四)

天鷲絨友禪

三一・〇×二五・〇

千總の十二代西村總左衛門が明治十一年(一八七八)に発表した天鷲絨友禪の技法による掛幅。天鷲絨は、その特有の毛羽をつくるため、緯糸方向に銅線を打ち込んで織り上げられる。千總は、この銅線を残したまま文様を染める技法を新たに発明し、銅線を抜いた後にできる輪奈の部分を切って起毛させ、あるいは輪奈をそのままに残すことで、奥行き感のある表現を可能とした。本作は、明治二十七年四月に宮内省より注文制作されたもので、同年七月に納品された「梅尾之図」「修学院之図」の二幅の掛幅の一つ。当時の契約書には「天鷲絨織御掛物」「発明写真風友禪染」と記される。この「写真風」という言葉は、まさに天鷲絨友禪

が目指した表現を言い表している。修学院離宮の木々や橋が池の水面に映る様子や、山並が遠くに行くにつれ、かすんでいく情景までを友禪染で微細に表しており、その技術には驚かされる。風帯をのぞく表具すべてをひと続きの天鷲絨友禪によって仕上げられており、正倉院宝物の染織裂の模様を引用している。このような天鷲絨友禪による美術染織の数々は、掛幅や壁掛け、額装等の形で数多く制作されたが、織りそのものが脆弱なために緯糸方向に裂けやすく、当初の姿を現在に伝えるものは限られる。本作は、その中で状態よく伝えられてきた貴重な品である。



- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

明治美術の一断面——研ぎ澄まされた技と美

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 82

編集 宮内庁三の丸尚蔵館
制作 株式会社 東京美術
翻訳 黒川廣子
発行 宮内庁
平成三十年十一月三日発行

© 2018, The Museum of the Imperial Collections, Sanomaru Shozokan